

Anchor

No. 28

2002年3月 アンカー

星（光）に導かれて

マタイ 2:1～10

マタイ 2:1 イエスがヘロデ王の代に、ユダヤのベツレヘムでお生れになったとき、見よ、東からきた博士たちがエルサレムに着いて言った、

東方の博士たち—真理の探究者

高潔さと知恵を尊敬されていたこれらの哲学者たちは、絶えず光を、真理を求め続ける人たちであった。彼らが真理をどんなに熱心に調べたかについて現代の預言者は聖書ではわからないことを次のように書いている:

「神の光はいつも異教の暗黒の中に輝いている。これらの東の博士たちが星空を調べ、星の光る道にかくされている神秘をさぐっていたとき、彼らは創造主の栄光を見た。もっとはっきりした知識を求めて、彼らはヘブライの聖書を調べた。彼ら自身の国には、天来の教師が現われることを予告した預言者の書が秘蔵されていた。．．．しかし旧約聖書の中には、救いの来臨がもっとはっきり啓示されていた。」希望 48,49

彼らは特別な神秘的な光を見た。「その光が消えると、一つの光り輝く星があらわれ、空にとどまった。」「この星は遠くに輝く一群の天使たちだった。」彼らにとって「第一天使の使命」であったのだ。

キリストの来臨が近いことと、全世界が神の栄光についての知識で満たされることを知って彼らは非常に喜んだのであった。天来の真理の光を喜んで受け入れた。真理を一つでも知ると喜びに満たされるものである。「光は快いものである。目に太陽を見るのは楽しいことである。」伝道 11:7。

私も中学3年の後半に、初めて聖書を知り、第三天使の使命の光に浴した。最初の小さな光を見たのであったが、私の人生を全く変える喜びであった。安息日の真理を受け入れて、教会に行くのが何よりも楽しみであった。一つの真理を受け入れると「光は一層明るい光で照らす」ものである。

しかし、星が動き出したのである。星は彼らのいるところに輝き始めたが、さらにすばらしい「すべての人を照らす真の光」へ導くため、前進するのである。彼らは信仰によって、星の導くままに進んでいった。



道々彼らには自然界の神秘的なしるしが与えられたが、しかし、更に聖書で確かめたのであった。聖書のみがあらゆる教えと経験の唯一の基準である。どんなにすばらしい宗教的経験も聖書に基づいていなければならない。瞑想、祈りと奇跡、ペンテコステ運動、聖霊運動、その他主観的宗教体験を聖書より上に置く人たちがいる。しかし、東方の博士達はそうではなかった。

イエスはエマオへの途上で、困惑している弟子達にご自分が復活したことを聖書全体の預言から説き明かしたのであった。その後でご自分を現わされたのであった。

「休息のために立ちどまるたびに、彼らは預言を調べた。すると、自分たちは神にみちびかれているのだという確信が強くなった。」 1 希望 50

だからペテロは「こうして、預言の言葉は、わたしたちにいつそう確実なものになった。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで、この預言の言葉を暗やみに輝くともしびとして、それに目をとめているがよい。」と薦めているのである。(ペテロの第二の手紙 1:19)。預言の光は漸進的に前進する。星が動いて導いたように、それに従っていかなければ、「闇に追いつかれて」しまう。

やがて星はエルサレム神殿の上でとまった。博士達は当然全エルサレムがこの良きおとずれでにぎわっていると思った。異邦人は与えられた光に従って喜びに満たされているのに、神の民はかつて代々にわたって光が与えられてきたけれども、各時代前進する預言の光についてこなかった。「すべての人を照らすまことの光があつて、世に来た。」しかし、「彼は自分の民のところきたのに、自分の民は彼を受け入れなかった」のである。

彼らは指導者に会った

マタイ 2:2 「ユダヤ人の王としてお生まれになったかたは、どこにおられますか。わたしたちは東の方でその星を見たので、そのかたを拝みにきました」。

ユダヤ人の王（ヘロデ王）に「ユダヤ人の王」のことを聞いた。「ユダヤ人の王としてお生れになったかたは、どこにおられますか。わたしたちは東の方でその星を見たので、そのかたを拝みにきました」。

目に見える現実の王の前で恐れることなく、この地上の王権よりも高きにいます大君について聞くことは無礼になるとは考えなかったのだろうか。単刀直入に、真の王を拝むために不思議な光に導かれてここまで来たことを告げた。

現代の真理は動揺をもたらす

マタイ 2:3 ヘロデ王はこのことを聞いて不安を感じた。エルサレムの人々もみな、同様であった。

「ヘロデ王はこのことを聞いて不安を感じた。エルサレムの人々もみな、同様であった。」

新改訳では「恐れ感った」となっており、欽定訳では「troubled 困惑」となっている。この良きおとずれが神の民に「困惑、不安、動揺、恐れ感、分裂」を起こしたのである。エルサレムの指導者はじめ、住民は寝ていた。大事件の切迫感も、危機感も失っていた。我々も「アドベンチストの焦燥」を感じつつも、耳障りのいい話だけを心なだめる子守歌のように聞かされていないだろうか。「日は延び、すべての幻はむなしくなった」がイスラエルでことわざとなっていた（エゼキエル 12:22）。

確かに異端の教えは教会を乱し、動揺させ、困惑させる。しかし、必ずしもそれだけではない。各時代天来の光—現代の真理が送られたときには、同じ現象が起こったことは、聖なる歴史をみれば歴然としている。背教の王アハブは、エリヤによって天からの光がもたらされた時、何と言っただろうか。「イスラエルを悩ます者よ」と預言者を責めた。しかし彼は「わたしがイスラエルを悩ますものではありません。あなたと、あなたの父の家が悩ましたのです。あなたがたが主の命令を捨て、バアルに従ったためです。」と答えたのであった。（1列王 18:18）

天からの光は、「平和だ、無事だ」の眠れるラオデキアに困惑、とまどい、動揺を与える。キリストの教会は「非対立」であるべきだと言う人がいる。「一致こそキリストが最も重荷をもって祈ったことであり、平和への道である」との主張のもとにキリスト教界はエキュメニカル、教会一致、合同運動へと華々しく動いている。しかし、聖書は真理を犠牲にして一致することを薦めていない。

また、ある人はキリスト教の神髄は愛であって律法を強調すべきではないと言う。現代の説教の傾向は、神の義を神の慈愛から引き離して、慈愛を原則として高めるより、むしろ、一つの感情に低下させている（大争闘下 192 参照）。エレン・G・ホワイトはこの感傷主義を心霊術と呼んでいる（大争闘下 313 参照）。「愛は不義を喜ばないで真理を喜ぶ」のである。キリストに聖霊が満たされたのは「義を愛し、不義を憎まれた」（ヘブル 1:9）からである。それゆえにキリストは「地上に平和をもたらすために、わたしがきたと思うな。平和ではなく、つるぎを投げ込むためにきたのである。」（マタイ 10:34）と言

われたのである。

博士たちのもたらした光は、王と住民に動揺をもたらした。

「この天からの使命にいらだちを感じ、悪意を抱くことほど、教会が神から離反したことの決定的証拠はないのである。」大争闘下 30

「それぞれの時代において、その時代に特に適切な現代の真理を伝えるために神に用いられる者は、すべて、反対に会わなければならない。ルターの時代には、現代の真理、すなわち、その時代において特別重要な真理があった。今日の教会のためにも現代の真理がある。」大争闘上 168

ルターは議会で言った：

「福音が昔のように、今、紛争と議論の原因になったことを、わたくしは喜びます。これが、神のみ言葉の特質であり、運命なのです。」大争闘上 190。

私の部落に第三天使の光がやってきたとき、安息日の光に従って十数名の学生が学校を休み、毎週土曜日には教会に行った。教育界に大きな波紋を投げかけた。学校の先生方父兄に不安が生じた。迫害が展開された。新聞には「社会秩序の紊乱者、学校教育の破壊者、セブンスデー・アドベンチスト教会を打倒せよ」と書き立てられた。教会の教えが社会を悩ましたのではなく、あまりにも深い闇に住んでいたので輝く光が人々をとまどわせたのであった。

光のチャンネル(通路)は指導者とは限らない

マタイ 2:4 そこで王は祭司長たちと民の律法学者たちとを全部集めて、キリストはどこに生れるのかと、彼らに問いただした。
2:5 彼らは王に言った、「それはユダヤのベツレヘムです。預言者がこうしてしています、
2:6 『ユダの地、ベツレヘムよ、おまえはユダの君たちの中で、決して最も小さいものではない。おまえの中からひとりの君が出て、わが民イスラエルの牧者となるであろう』」。

祭司たち、学者たち、長老たちは羊飼達によって知らされていたが、知らないふりをしていた。「それを注目に値しないものと見なしていた」のであった。

神は指導者を光の通路となるように望んでおられる。しかし、歴史はしばしばそうでないことを証している。

「初期におけると同様に、現代に対して特別に与えられた真理は、教会の権威者のところに見いだされるのではない。それは、これといった学識も知恵もない

けれども、神のみことばを信じる男女のところにあるのである。」実物教訓 56。

「真理のことばが語られると、人々はめったに、『それは本当だろうか』とたずねないで『それはだれから支持されているだろうか』とたずねる。大衆は、それを受け入れる人の数で評価する。『学者や宗教界の指導者たちの中には信じている者があるだろうか』という質問が今でも聞かれる。キリストの時代と同じように、今日も人々は真の信心に対して好意を示さない。彼らはいいかわらず永遠の富をなおざりにして、地上の幸福を熱心に求めている。多数の人たちがそれを受け入れようとしないとか、世のえらい人たちや宗教界の指導者たちさえそれを受け入れないということは、真理に反対する論拠とはならない。」
2 希望 244。

「牧師に信頼するな」というと、非常に誤解されやすいが、どういう意味で私はそれを言っているのであろうか。救いの知識に関して聖書を自ら探れ、鼻から息をするものに頼るなどみ言葉にはつきり強調されているので、それをそのまま伝えているだけである。学者、監督、牧師、世界総会でさえも「おきてとあかし」—聖書と証の書に上回る権威ではない(大争闘下 360 参照)。これはプロテスタントの一大原則ではなかろうか。

「聖書には偽教師に対する警告が満ちているにもかかわらず、多くの人たちはこのようにしてすぐに自分たちの魂を牧師に預けてしまう。今日、信仰を告白する幾千の人たちは、牧師からそう教えられたということ以外には、自分の信じる信仰の要点について理由を説明することができない。彼らは救い主の教えにほとんど注意を払わず、牧師たちの言葉に全面的な信頼を置いている。しかし、牧師は絶対に誤りを犯さない者であろうか。われわれは、彼らが光を掲げる者であるということ、神のみ言葉によって知らないかぎり、自分の魂を彼らの指導にゆだねることがどうしてできようか。世の踏みならされた道から踏み出す精神的な勇気が欠けているため、多くの人々は学識者の道に従い、自ら調べるのに無精であるため、絶望的なまでに誤謬の鎖につながれている。彼らは、今の時代のための真理が聖書の中に明白に示されていることを認め、み言葉に伴う聖霊の力を感じていながら、牧師たちに反対されるままに光にそむいてしまう。理性と良心では確信していながら、これらの欺かれた人たちは、あえて牧師と違った考え方をしようとしなくて、自分自身の判断と、自分たちの永遠の利益を、他人の不信仰や誇りや偏見の犠牲にしてしまうのである。」大争闘下 363。

真理を自分自身で調べる

マタイ 2:7 そこで、ヘロデはひそかに博士たちを呼んで、星の現れた時について詳しく聞き、2:8 彼らをベツレヘムにつかわして言った、「行って、その幼な子のことを詳しく調べ、見つかったらわたしに知らせてくれ。わたしも拝みに行くから」。

異邦の探求者達は、遠いところから大きな犠牲を払って光を求めて来た。神の民と称する王はじめ、エルサレムの住民=セブンスデー・アドベンチスト(安息日遵守者-メシアの待望者)は自分で調べるのではなく、他人に調べさせる習慣があった。

「彼らはそうしたことがほんとうかどうかを確かめるためにペツレヘムに行ってみようとさえしなかった。」1希望 54。

なぜ、彼らは現代の真理の光に心を閉ざしたのであろうか。

「そこで、高慢とねたみのために、光に対してとびらがとざされた。羊飼たちと博士たちによって伝えられたうわさがもし信用されたら、祭司たちとラビたちの立場ははなはだおもしろくないものになり、自分たちが神の真理の解説者であるという彼らの主張はくつがえされることになる。この学識のある教師たちは、自分たちが異教徒と呼んでいる人々の前に身を低くして教えを受けようとはしなかった。神が自分たちをみすごして、無知な羊飼たちや割礼を受けていない異邦人たちにお知らせになるはずがないと、彼らは言った。」同。

「今日も多くの者が、昔のユダヤ人と同じようにだまされている。宗教教師たちは、彼ら自身の理解と言い伝えの光に照して聖書を読み、人々は、自分で聖書をさぐって真理が何であるかを自分で判断しようとしな~~い~~。彼らは、自分の判断を放棄して、自分の魂を指導者たちにまかせる。神のみことばを説き、これを教えることは光をゆきわたらせるために神がお定めになった方法の一つである。しかしわれわれは、どんな人の教えも聖書に照して調べてみなければならない。真理を知ってこれに従いたいとの望みをもって聖書を祈りのうちに研究する者はだれでも、神からの光を受ける。彼は聖書を理解する。『神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教がわかるであろう』(ヨハネ 7:17)。」2希望 243。

「この地上の歴史が閉じられようとする状況にあつて、特別の真理を聞かされる人々が、ベレヤの人々の模範に従い、日々聖書を調べて、神のみことばと彼らに伝えられた使命を比べようとするならば、神の律法の教えに忠実なものが、いま比較的少数しかいないところに、今日、もつと多くいるはずである。しかし、人々が好まない聖書の真理が示されるとき、多くの人々はこのように熱心に調べることを拒むのである。聖書の明白な教えに論駁できなくても、彼らはなお、示されている証拠を学ぶことに全く気が進まないのである。ある者たちは、これらの教理が本当に正しいとしても、その新しい光を受け入れるかどうかは大したことはないと考えて、敵が人々をさまよわせるために用いる面白いつくり話に執着している。こうして彼らの心は誤りにくらまされて、天から離れてしまうのである。

~~すべての者は、与えられた光に応じて裁かれる。主は、救いの使命を携えて行く使者をつかわされ、聞く者たちに、神のしもべたちの言葉をどのように扱うかについて責任を負わせられるのである。真理を心から探し求めている人々は、彼らに提示された教理を、神のみことばに照らして、注意深く研究するのであ~~

すべての者は、与えられた光に応じて裁かれる。主は、救いの使命を携えて行く使者をつかわされ、聞く者たちに、神のしもべたちの言葉をどのように扱うかについて責任を負わせられるのである。真理を心から探し求めている人々は、彼らに提示された教理を、神のみことばに照らして、注意深く研究するのである。」患難上 250。

「もしナタナエルがラビの指導を信頼していたら、彼は決してイエスをみいださなかったであろう。彼は自分で見、自分で判断して、弟子となった。今日偏見にとらわれて恵みから遠ざかっている多くの人々の場合も同じである。もし彼らがきて見させたら、その結果はどんなに異なったものになるだろう。

人間の権威による指導にたよっているかぎり、だれも救いの知識である真理に到達することができない。ナタナエルのように、われわれは神のみことばを自分で研究し、聖霊の光を求めて祈る必要がある。」1 希望 159,160。

沖縄伝道の初期に、SDA 教会が迫害された頃の記録を書いておこう。

「当時、国頭村の教育委員長をしておられた宮城定蔵先生は、温厚篤実な方でした。こんなに世間を騒がしている教会は、一体何を教えているのだろうと、実際教会に来られて調べました。そして聖書の教えに納得なさって引退してからはご自分も教会に出席なさり、長年教会長老として奉仕してくださいました。また、村の婦人会長として活躍なさっていた奥様のカナ先生も、公立の教師をしておられた娘さんたちも、家族そろってセブンスデー・アドベンチストになられたのです。」(茜雲のように輝いて 88)。

キリストへの憎しみとメシアを捨てることはここからはじまった！

「彼らはヘロデ王やエルサレムじゅうをわきたたせているうわさに軽蔑を示そうと決心した。彼らはそうしたことがほんとうかどうかを確かめるためにベツレヘムに行ってみようとさえしなかった。そしてイエスについての関心を狂信的な騒ぎだと人々に考えさせた。祭司たちとラビたちからキリストが捨てられることはここにはじまった。ここから彼らの高慢と頑迷さが、救い主に対するかわらない憎しみへと発展していった。神が異邦人に門戸をお開きになっているのに、ユダヤ人の指導者たちは彼ら自身の門戸をとざしていた。」1 希望 54。

星は更に進んで導くー各時代の真理の光は漸進的に前進する！

マタイ 2:9 彼らは王の言うことを聞いて出かけると、見よ、彼らが東方で見た星が、彼らより先に進んで、幼な子のいる所まで行き、その上にとどまった。

った。

「更によいものを」というのが、教育の合言葉であり、すべての真実な生き方の法則である。」教育 349。

異邦の博士達は更に良いものをと求め続ける心が旺盛であった。それに比べて最もすばらしい光が与えられていたユダヤ人はどうであったろう。「ユダヤ人のすぐれている点は何か。また割礼の益は何か。それは、いろいろの点で数多くある。まず第一に、神の言が彼らにゆだねられたことである。」ローマ人への手紙 3:1,2。真理の保管者であったユダヤ人は過去に与えられた真理の光で満足してしまっ、代々にわたって与えられる新しい光に心を閉ざしたので闇に追いつかれてしまった。

「わたしたちが謙そんになるときに、神がわたしたちに向かって、ご自分をおあらわしになることができ、また、おあらわしになる域にまで進むのである。過去に、あわれみと祝福を賜ったから、今度は、もっと大きい祝福を与えたいと祈るとき、神は非常にお喜びになる。」ミニストリー499。

光は進んでいく。それについていかないと闇に追いつかれてしまう。それが自然の法則である。

霊的にも、天から送られる光は絶えず増し加わる。

「真理には、どの時代にも新しい発展があった。つまり、時代ごとに、その人々のための特別の神からの使命があった。」実物教訓 105。

新しい光に進まないとうなるだろうか。

「新しい光を拒んでなおざりにする人は、実は、古いものを持っていない。それは、彼にとって、生きた力を失ったむなしい形式と化してしまうのである。」同。

神の民は、旧約時代の聖所の型と預言に実体のメシアが現れるまで、時代と共に展開される預言の解説、新しい光に進んでいかなければならなかった。彼らは、漸進的な信仰の働き方を聖所に学ぶはずであった。実体の聖所であり、犠牲であり、大祭司であられる「諸国の希望」*desire of all nations*（欽定訳）が時満ちるに及んで現れた時、過去の光に歩んでいなかったの、最初からユダヤ国民としてイエスを拒んでしまうことになった。

当時の「現代の真理」はイエスがキリストであること、すなわちイエスは世の罪を取り除く神の子羊であり、十字架で犠牲として死に、そしてよみがえって、いと高き神のみ座の右に座し、罪の許しを得させる唯一の仲保者であるということであった。初代キリスト教会は死んでよみがえり、生きて取り成したもうお方を伝えて迫害された。

16世紀の宗教改革時代の「現代の真理」は、イエス・キリストに対する信仰によって

義認されること、聖書、聖書のみが唯一の権威、万民祭司という真理であった。

19世紀に再臨運動が起こった。キリスト再臨近しが当時の「現代の真理」であった。2300日は聖書で最も長い預言の期間で、最も難解な預言の聖句であったが、ちょうどその時が来たとき、神は器を立てられ解読されたのであった。しかし、

「人々は、まだ主に会う準備ができていなかった。まだ、彼らのためになされねばならぬ準備の働きがあった。彼らは、まず光(新しい光)を受けて、天にある神の宮に心を向けねばならなかった。そして彼らが、そこで奉仕しておられる彼らの大祭司に、信仰によって従っていくときに、新しい義務が示されるのであった。もう一つの警告と教えの使命が、教会に与えられるのであった。」(括弧は筆者の挿入)大争闘下 140。

大失望後、神の民は、至聖所において主の再臨の前に調査審判、最後のあがないの経験で罪が除去され、完全に神の律法と調和するものとされ、神の律法を擁護するという「現代の真理」の光が与えられた。こうして、現代の光という星はキリスト教会を十字架(祭壇)から始まり、天の聖所の第一の部屋に導き、終わりの時いたって、至聖所へと導いていったのである。こうして創造と贖罪の記念日である安息日が現代に特別の意味をもたらすことを知って、セブンスデー・アドベンチストという旗印を掲げて全世界に運動を展開していったのである。

しかし、1852年にははやくも大祭司イエスを見失い、律法主義に陥ってしまい、ラオデキア教会となった。

1888年に至聖所の大祭司に目を向け、イエスの功績によって罪が除去されてあがないが信者の内に完成されるという、神の約束に対する信仰による義認の新しい光が送られる。ヘロデ王(行政指導者)と祭司たち(宗教指導者)のゆえに民として我が教会は、その二人の器—A.T.ジョーンズとワゴナーを通して天から送られた「尊いメッセージ」を拒否した。それを受け入れたなら、後の雨と大いなる叫びをもたらすほどの重要な使命であった。

1950年代に二つの運動があった。一つは1888年の信仰による義認の使命は、他教派にあり我が教会が見失っていたものである。それをSDAは再発見したのであるとして他教派のキリスト教界に受け入れてもらおうとする努力がなされた。もう一つは、ウイーンランドとショートによる運動で、1888年のメッセージは、ユニークなもので他教派と共有しない、「第三天使の使命は信仰による義認そのものである」。我々はそれを拒んでしまった。「1888年再吟味」をすべきだと忍耐強く、世界総会に働きかけてきた。

1960年代に聖所の覚醒運動がオーストラリアの二人の農夫ブリンズミード兄弟によって起こされた。それは至聖所における「最後の、特別なあがない」を強調し、「聖所の清め」の意味を鮮明にするものであった。「罪なき完全な品性」は神学的議論を喚んだ。それはエルサレム(セブンスデー・アドベンチスト)にかなり大きな動揺をもたらした。他教派から「Shaking of Adventism」(セブンスデー・アドベンチストの動揺)という本も出されるほどであった。異端扱いされ、自分たちで調べてみたいということ

さえ許されない珍奇な現象が見られ、迫害も起きた。

一体何が問題かと追求しているうちに、私もセブンスデー・アドベンチストの神髄に初めて触れたのである。セブンスデー・アドベンチストの焦燥の荒波にもまれているときであった。「わたしは、わたしの足がつかずばかり、わたしの歩みがすべるばかりであった。」詩篇 73:2。あらゆる神学の混迷から救われて、はじめてイエスにお目にかかれたのである。イエスは外庭の祭壇＝十字架にはおられなかった。聖所の奉仕も済んでおられたのである。すでに至聖所に移られて最後の仲保をなさっておられるのである。今ここで、何をしておられるのかを知った。「そこにカルバリーの十字架からの光が反映している。我々は、贖罪の奥義について、もっとはっきりした理解を持つことができる」のである（大争闘下 222）。

その喜びは幾たび嬉し涙にむせぶ経験に導いたことか。今この記事を書きながらも熱くこみ上げてきた。「その星を見て、非常な喜びにあふれた」のである。

あの 1844 年の大失望の経験から再臨信徒を立ち上がらせたのも同じ経験であった。彼らの激しい試みには比べものにならないが、そのほんのかけらを経験させてもらった。ヤコブの苦悩は知的な苦悩と言われるが、それを彼らは幾分か経験したのであろう。

「わたしは、第三の天使が、上の方を指さして、失望した人々に、天の聖所の至聖所への道を示しているのを見た。信仰によって彼らが至聖所にはいるときに、彼らはイエスを見出して、新たな希望と喜びを味わうのである。わたしは、彼らが、過去を振りかえって、イエスの再臨の宣言から 1844 年における時の経過に至るまでの、彼らの経験を回顧しているのを見た。彼らは、彼らの失望が解き明かされて、ふたたび喜びと確信に活気づけられた。第三の天使は、過去と現在と未来を照らした。そして、彼らは、神が不思議な摂理によって、彼らを導いてこられたことを知るのであった。」初代文集 415。

「わたしは、イエスが彼らの告白と祈りを、父なる神におささげになったときに、香炉の香が煙るのを見た。そして、それが昇ったときに、輝かしい光がイエスと贖罪所のうえに宿った。そして、自分たちが神の律法の違反者であることに気づいて心を悩まし熱心に祈っていた人々は、祝福を受けて、彼らの顔は、希望と喜びに輝いた。彼らは、第三の天使の働きに参加し、厳粛な警告を宣言するために彼らの声をあげた。しかし、初めのうちは、それを受け入れる人は少なかった。それでも、忠実な人々は、力強くメッセージを宣言しつづけた。それから、わたしは、多くの者が、第三天使の使命を受け入れて、最初に警告を発した人々と声を合わせ、神が清められた休みの日を守って神に栄光を帰すのを見た。」同 416。

今日も、セブンスデー・アドベンチストとしての希望と喜びと確信を見いだすには、イエスがおられるところに信仰によって進まねばならない。セブンスデー・アドベンチストのアイデンティティ（独自性）を問われる今日このごろであるが、私はそれは、至聖所の大祭司イエスの働きと立場を知ることにはしか見いだせないと思う。セブンスデー・アドベンチストとしての立場はそこにのみある。

光が与えられたところでとどまることなく、神が新しい光を与えられる時には喜んで興味を示し、小羊の行く所へどこへでも素直についていきたいものである。今、我々は信仰によってイエスを至聖所に発見するがここで止まってはならない。顔と顔をあわせるまで、神は光を終末の神の民に与えられるという約束がある。古い光、真理にだけ満足するのではなく、新しい光の導きに従おう。

至聖所のイエスに出会ってから、主はなお一歩、一歩我々を導いておられることは感謝にたえない。終末に向けて接近する嵐に備えるためにダニエル 12 章の解読がなされつつあることにも触れることになった。そして、不思議なことについて最近になって聖書考古学的な発見が矢継ぎ早になされた。それらは何千年も隠されていたが終末事件に人々の心を向けるために重要な役割を果たしていることを知って驚いている。それに今また十四万四千を備えるために、ユダヤ制度から新しい光が輝き始めていることを知った。

「この地上歴史の終末に関する特別な真理の展開が地上に住む最後の世代までであるのである」2T 692-693。

「大終末の前夜まで延びているダニエルの預言は、その時起こる諸事件にあふれるほどの光（光の洪水）を投げかけている。」RH,9-25,1883。

「彼らのキリストについての知識と関係した預言の知識は、地上歴史が終わりに近づくにつれ、大いに増し加わるであろう。」MS,176,1889。

「この地上歴史の終わりに近づくとき、もっとすばらしいことを表し示すであろう。」MS 75,1899。

「あなたのもっている光に従えば、もっと大きな光が来るであろう。」祝福 187。

「増し加えられた光がすべての偉大な預言の真理の上に照り輝くであろう。それらは義の太陽の輝かしい光の故に新鮮さと輝きをもって見られるであろう。」MS18,1888。

こんなすばらしい約束があるのだから天からの光に浴して喜びに満ちあふれるセブンスデー・アドベンチストになりたい。闇に追いつかれないようにしよう。

「古代イスラエルの子らの試みとキリスト初臨前の彼らの態度は、キリスト再臨前の彼らの経験と立場を例証することを私は幾たびも幾たびも示された。」ISM 406。

ああ、ホワイト夫人に示されたことが今日のセブンスデー・アドベンチストに当てはまらなければいいのだが。...

博士たちは、現代の真理に導かれて「幼な子に会」った。我々は今大祭司イエスに信仰によって会う喜びが与えられる。この終わりの時に次々と与えられる新しい真理の光に従えば、まもなく、王の王、主の主、ベツレヘムの馬小屋でなく空中で迎えられ、全く新しくされたエルサレムでお会いする特権が与えられるのである。その時、天の大君イエスを親しく仰ぎ見ることができるだけだけでなく、星に導かれた博士たちにも会えるであろう。

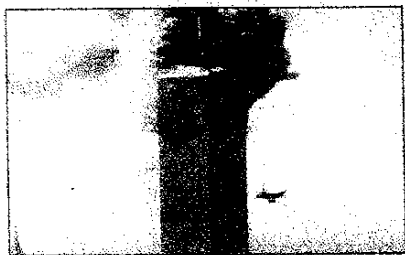
昨年9月11日に起きたニューヨーク同時多発テロ事件は全世界の人々を震駭させた。世界のマスコミが毎日、繰り返し繰り返し21世紀のこの異常な出来事を報道した。痛々しい惨事であったが、その中でこんな心温まる出来事もあったという。読者の皆様には是非分かち与えたいと思い、ここに紹介する。



ニューヨークテロ事件で見た恐怖と希望

ジョン・デヴィット

安富祖すが子 抄訳



それは7:40AM、輝くような9月の朝のことでした。私は世界貿易センター・タワー1・87階のオフィスのドアのかぎを開けました。この時間に着くようにするには、郊外にある私の家を5時半に起きて出勤しないといけないのですが、私はこのだれも出勤して来ない朝の静けさが大好きなのです。

まもなく始まる株式市場、そして株の売買、お客との交渉、喧騒な雰囲気につつまれる直前のこの静けさ、一人でオフィスにたたずんでこの世界に誇る偉大なビル自身の声を聞くのです。鉄骨を組む職人は言うでしょう、鉄筋は歌うと…。両親がイタリアから移民してきた私にとって、それはオペラ歌手が私のために歌っているように聞こえるのです。

もちろん、ここは世界でも名だたるニューヨーク株式市場のあたり、私は人生45年の半分をこの競争のはげしい“me-first(ミーファースト)”。他人をおしのけてでも自分が先に行かねばダメな世界で過ごしてきたのです。こうして窓辺に立って大きなカップ一杯のコーヒーを片手に、この静けさと美しさを満喫しながら外をながめれば、“自由の女神”がすぐそばに立ち、ハドソン河が朝日を浴びてキラキラ輝いています。ここニューヨークは私が生まれ育った街なのです。

同僚が1人、2人と出勤してきて、活気を取りもどしてきました。私を含めて14人が働いています。「おはよう」と気持ちよくあいさつを交わして、さあ忙しいスケジュールが始まりました。まずEメールをチェックして書類に目を通し、電話を取ろうとしたその時、9時になるちょっと前でした。部屋が右に大きくゆれました。

私は椅子からあやうく落ちそうになりました。机のはじをつかんでどうにか体を支えたと思ったら、今度は左にグラッとゆれました。地震だろうか？ 天井のタイルが机に落ち、照明器具のワイヤーがたれ下がり、誰かがバクダンだ！と叫びました。

「聖所と調査審判の問題は、神の民によってはっきりと理解されねばならない。すべての者は、自分たちの大いなる大祭司キリストの立場と働きについて、自分で知っている必要がある。そうしなければ、この時代にあつて必要な信仰を働かせることも、神が彼らのために計画しておられる立場を占めることもできなくなる。」大争闘下 222。

マタイ 2:10 彼らはその星を見て、非常な喜びにあふれた。

なぜ、今日セブンスデー・アドベンチストとして多くの者が暗礁に乗り上げているかという理由は、至聖所にいますイエスのところに来ないからではないか。エルサレムの住民はアブラハム、モーゼの子孫、選民と思ひこんでいたがイエスを受け入れなかった。異邦の博士達は「幼子のいる所まで行」ったのであった。一般のキリスト教会員としてとどまっていようと思うなら、外庭、聖所まで来ればいい。しかし、セブンスデー・アドベンチスト「残りの民」＝レムナントとしての立場を保持しようと思うなら、更に進まねばならない。

セブンスデー＝第7日安息日を守るグループは、他にもいくつかある（ユダヤ教、セブンスデー・バプテスト、御霊教会等々）。アドベンチスト＝再臨待望者も他にいくつもある（ビリー・グラハムの属するバプテスト、ホーリネス教会等々）。創造主が犠牲と仲保の働きによつてもろもろの罪から信者を清め、元の完全な品性の状態に造りかえる至聖所の働きを理解し、宣べ伝えることこそセブンスデー・アドベンチストの専売特許なのである。至聖所の現在のイエスの働きと立場に無知で、安息日を守つても力がない。いきなりイエスの再臨を説いてもセブンスデー・アドベンチストとは言えない。つまり、キリストの再臨に備えさせる「特別なあがない」に人々の目を向けさせることが先決問題なのだ。大争闘下 140、141 ページを読んでいただきたい。

我々はよく第三天使の使命の宣布のことを言う。しかし、至聖所のイエスの働きに言及しないで「第三天使の使命」の宣布はあり得ない。エレン・G・ホワイトはこう言っている：

「第三の天使は、『ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある』と言つて、メッセージを終わっている。彼は、この言葉を繰り返したときに、天の聖所を指さした。このメッセージを信じるすべての者の心は、至聖所に向けられる。イエスはそこで箱の前に立つて、恵みがなお与えられているすべての人々と、知らずして神の戒めを破つた人々のために最後の仲保をしておられるのである。...

わたしは、第三の天使が、上の方を指さして、失望した人々に、天の聖所の至聖所への道を示しているのを見た。信仰によつて彼らが至聖所にはいるときに、彼らはイエスを見出して、新たな希望と喜びを味わうのである。」初代文集 414、415。

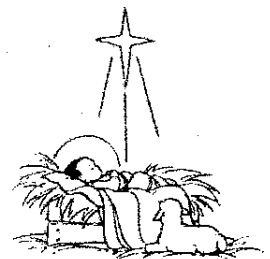
1888年の使命を拒み、1957年に福音派の学者たちと妥協し、我々の特殊な教理を希薄にし、セブンスデー・アドベンチストが唯一の終末的「残りの民」であるという意識が薄らぎ、1960年代の覚醒メッセージを拒んだことから、1970年代の聖所へのフォード博士の攻撃、1980年代のウオルター・レー牧師の証の書への攻撃が一般に公開された。1990年代からリベラル神学（新神学=自由主義）が優勢になり、我々の教会の特殊教理が説かれなくなったばかりでなく、十字架中心という名の下に律法は掲げられなくなり、教理の研究、預言の研究はおろそかになり、教会の標準は低下していく。礼拝はセレブレーション(祝典)式を取り入れる傾向になり、特選の民という意識は希薄になっていく。

喜びにあふれる教会にしようとして他教派からセレブレーション（祝典）礼拝を真似ても効き目はない。青年たちを教会に引きつけようとロック調の音楽礼拝を取り入れても興奮剤を使用するようなものだ。

礼拝、献身、捧げ物

マタイ 2:11 そして、家には行って、母マリヤのそばにいる幼な子に会い、ひれ伏して拝み、また、宝の箱をあけて、黄金・乳香・没薬などの贈り物をささげた。

星に導かれて博士たちは、幼子に会いまごころからの礼拝をささげた。礼拝のことを英語で「worship」という。「worth=価値」と「ship=シップ、状態、関係」からできている。最高の価値につながることだとの説明を聞いたことがある。人はすべての物、命さえも捧げる価値のある対象を見いだしたとき、ほんとうの幸福をつかんだことになるのではないか。博士たちは最高の価値を発見したとき、どんな高価な宝物を捧げても惜しいとは思わなかったのである。人生の最高の価値を見いだした彼らは、全き献身に導かれた。このような価値観に目覚めて、worship=礼拝をささげる SDA 信徒は、喜びにあふれて活動し宝を携えてくるので、教会は閉塞状態になるはずがないし、献金の訴えで頭を痛めることもなくなるであろう。



まとめ：

星が導くままに前進していった博士たちは、我々に何を教えるだろうか。

光が与えられたところとどまることなく、神が新しい光を与えられる時には喜んで興味を示し、小羊の行く所へはどこへでも素直についていきたいものである。今、我々は信仰によってイエスを至聖所に発見するがここで止まってはならない。顔と顔をあわせるまで、神は光を終末の神の民に与えられるという約束がある。古い光、真理にだけ

お互いに声もなく凝視しておりましたが、私は「ちょっと調べてくる」と言い残し、廊下にとびだしました。あちこちのドアからみな顔を出して、何ごとが起こったのかと戸惑っています。煙が見えます。エレベーターの前を通りこしてしばらく行くと、驚いたことに突然その先がないのです。崖のふちに立っているようです。

私はそのくずれ落ちてしまった廊下のはしに立って、ねじ曲がった鉄筋と燃えあがる火を見おろしておりました。風の勢いでいるんなものが舞いあがり上から降りかかってくるので、やぶれた壁の板を無意識につかんで払いのけながら火を消そうとしておりました。

しかし次の瞬間われにかえり、きびすを返してオフィスに向かって走り出しました。同僚たちは私がやったように愚かなことをしておりました。ある者は重要書類を必死になってかき集めており、ある者は大きなデスクコンピュータを箱に入れて持ち出そうとしたり…。

私が今さっきまでコーヒーを飲みながら、雄大な展望を楽しんでいた窓辺はくずれ落ち、金属がねじ曲がっています。ほこりと煙が天井から降りかかってきます。私は同僚たちに、何らかの指示を与えないといけないのですが、どうすればいいのか…錯乱状態です。私はクリスチャンですが、こんなとき神様の存在がとても遠くに感じられました。私はこのオフィスに残って、この会社の重要ファイルを守るべきだろうか？ 不思議なことに、頭脳が停止したかのように考えられないのです。

同僚の一人が自分の着ているシャツをやぶって、鼻をおおうマスク代わりにみんなに渡しています。やっと我にかえりました。第一にすべきこと、仲間全員をこのビルから出さねばならない。私はまず机に走って行って家に電話を入れました。妻と娘の名を呼んで愛しているよと告げました。それからボトルの水をみんなに渡して、オロオロした人たちをせき立てました。

「さあみんな、何もかも置いてここを去るんだ！逃げるんだ」。廊下に出たら、煙がひどく立ちこめています。「エレベーターはダメだよ！」大きな声で叫びました。ぬらした布で鼻をおおい、私を先頭に右に左に進みつつ、どこが非常口だろうか？ 私は今まで何千回も通っている慣れたビルの中で、非常口がさがせるだろうかと不安におそわれましたが、あのくずれ落ちた廊下のすぐ手前にやっと見つけました。もしあの廊下が非常口と共にくずれていたら、私たちは完全に逃げ場を失うところでした。

階段は煙と逃げまどう人々でいっぱいでした。せまいせまい階段、みんな一列に並んで仲間とはぐれないように、前の人の肩をつかんで下りましょうと指示を与え、14人が一列になってチェーンのようにつかまり合って下りはじめました。86階、85階、周りの人たちが話しています。飛行機が突っ込んできたようだと。信じられない！

煙でむせながら、天井からは防火用の水がシャワーのように降りかかり、びしょぬれです。ある人は泣き叫び、祈っている人もいます。いつの間にか仲間たちとの鎖は切れて、数人しかいません。73階、72階…、大やけどを負った女性がかかえられて下りていきます。神さまはいったいどこにおられるのだろうか？ 57階まで来たとき、私のひざ

はガクガクになって、極度の疲労をおぼえました。ほとんど30分、階段を下りつづけてまだここまで…あと50階下りねばなりません。

43、42、41階まで来たときです。私は彼を見たのです。彼は消防士でした。重い救助の道具を背負って階段を上ってきました。彼は私の一番手前の階段で立ち止まってヘルメットをはずしました。汗が滝のように流れています。短く切ったブロンドの髪、かしくそうなブルーの目をして、アイルランドの地図をほうふつとさせるような顔立ちです。

疲労と息切れでほてった赤い顔をしておりますが、なんだか全体が輝いて見えるのです。どうしてそう見えるんだろう。なぜこんなに私の心をひくのだろう。どこかで会ったことがあったかな？と思ひながら、私は声をかけました。「お疲れでしょう、このお水をどうぞ飲んでください」と申しました。青い目の若者は私の目をじっと見つめて、「私は大丈夫です。誰かもっと必要な人にあげてください」と言い、ヘルメットをかぶりなおして階段をまた上へ上へとのぼりつづけていきました。

私は下へ下へとおりつづけて、37、36、35階、「誰かもっと必要な人にあげなさい」、この言葉がこびりついて私の脳裏から消えません。そして急に思いつきました。消防服に身をかためた、あの青い目の若者、あれはまさしくイエス・キリストのお顔でした。

そして気づきました。あの非常階段で恐怖におびえた人々、しかし誰も押し合いへし合いしないのです。誰も前にいる歩みののろい人を押さない。早くいけ！などと言わない。身体障害の人は誰かが助けてあげる。男性は女性を先に行かせてあげる。やけどを負った人などケガ人が運ばれてくると、みな壁の方にびったり張りつくようにして、通りやすくしてあげる。消防士が上ってくると立ち止まって彼らを通し、ねぎらいの言葉をかける。

この命からがら一刻をあらそって逃げねばならぬ人たちの態度！ われ先に、自分さえよければいいという、いつも見られる光景とは全く正反対のことが、地獄の絵巻のようところで起こっているのです。イエス・キリストの精神がいたるところで見られるのです。アジア系の女性が年老いた女性の腕を支えながら下りています。パキスタン人のような男性がどうぞと私を通してくれました。

神様はこのニューヨークを見捨てられたのでしょうか？ いいえ、神は今ここにおられるのです。私の周りにいたあの人々、命からがら逃げた人々、誰ひとり思いやりのない人々はいないのです。みなお互いを助け、いたわり合いながら下りていったのです。私が半分になった水のボトルを周りの人にすすめても、みな一口飲んで次の人にわたし、少しの水なのにまた私のもとに返ってくるのです。誰もひとりで飲みほしてしまう人はいません。私の周りの人々が、みなイエス・キリストの顔に見えました。

14階にいた3人の疲労困ぱいした消防士に水のボトルを置いて、10階、7階、そして突然、私は外に飛び出しておりました。私のほっとした心は、けたたましいサイレンの音に震え上がりました。消防自動車が見たところにおり、救急車と警察…。警察官が叫んでいます。「立ち止まらないで歩いていってください。上を見ないでください」。

しかし、みんな上を見えています。巨大なマッシュルームのような黒煙がタワー1、タワー2、両方のビルから立ちのぼっています。周りの人が言っています。2機の飛行機が衝突したと…。誰かが私の名前を呼びました。次の瞬間、3人の仲間と再会して、お互いに抱き合いました。

“Get out of here”（そこをどけ!）、警察官が叫びました。私はとっさに上を見上げました。そして信じられないことを見たのです。私の愛していたタワー2が、あの美しいビルが大音響と共にくずれ落ちたのです。人々は身ぶるいしています。ガタガタ震えています。何とも表現しようのない恐ろしい音でした。私は走りました。必死に走りました。しかし黒い煙が私に追いつき、私をすっぽり包んでしまいました。

熱とほこり、真っ暗でなにも見えません。私にできることはただ祈りながら、ひたすら一本のまっすぐな道を、後ろの巨大なビルをあとにして、前に向かって走りつづけることでした。転んだりつまずいたり、周りから泣き叫ぶ声、悲鳴が聞こえます。走っている人々の足も見えますが、誰の顔も見えません。この時の闇は、今までに想像したことのないものでした。数分前に私はイエス様のお顔を見たのですが、今ここで私を包んで息苦しくさせている闇、これは悪のわざであると知りました。

イエス様は愛、これは憎しみです。窒息しそうになりながら、これは悪魔がもたらしたもので、憎しみはいつもこのような状態に我々を引き込むのだと考えました。私たちが盲目にしてお互いの顔を、美しさを見せないようにするのは。

一筋の光を前方に見つけ、ドアを開けて飛び込みました。そこはレコード店でした。冷たくて甘い空気を夢中で吸いました。誰かが水を持ってきてくれました。座って休むように勧めてくれましたが、ここで妻と両親に無事を知らせたあと、私はまた外に出て北に向かって歩き続けました。どこでもいい、ただあの恐ろしい闇から逃れたい、遠くへ行きたいと…。

そして教会を探しました。どんな教会でもいい、ただイエス様に申し上げたい。「ありがとうございます。私のこれからの人生は、今までとは完全に違ったものになります。あなたの後ろに従います。私はいつもあなたを信じておりましたが、さっき私はあなたに会ったのですから」と私は、会堂の床にひざまずいて祈りながら、はじめて泣きました。

あとでタワー1もくずれ落ちたことを聞いたとき、あの青い目の消防士、そしてビルのすぐ前で、出てくる人々に指示していた警察官などの顔が浮かびました。そして Harry Ramos (ハリー・ラモス)、同僚の一人です。あとで知ったことですが、頑丈な体のハリーは36階で、肥満のため歩けなくなった見知らぬ男性を助けるため、逃げ遅れて命を落としたのでした。その他の仲間はみな無



事であることがわかりました。

この日に300人を超えるニューヨーク市の消防士が殉職いたしました。「人が友のために命を捨てること、これよりも大いなる愛はない」と言われた、イエス様の言葉を思い出します。崩れ落ちていく寸前のビルの中で起こった愛の行為。殉職した勇敢な消防士たちの尊い犠牲。闇が、悪の力が我々を押しつぶし、勝ち誇ったように見えても、神の愛はそれらの力を超えて、我々を美しい姿に変え、美しい最期をとげさせて下さいます。

Guideposts, 12, 2001 より

鳥かごとイエスのあがない

ニューイングランドという小さな町にジョージ・トーマスという名の牧師がいました。彼はあるイースターの安息日に、さびつき曲がりくねった、古い鳥かごを持ってきて講壇に置きました。

驚いた会衆にトーマス牧師は語り始めました。

私は昨日街を歩いているときに、ひとりの少年がこの鳥かごを持って街をブラブラ歩いているのを見ました。

その鳥かごの下の方に野生の鳥と思われる三羽の小鳥がうずくまり寒さにふるえ、怖がっている様子でした。

私はこの少年に呼び掛けました。

「坊や何を持ってるんだい」

「おいぼれた鳥だよ」

「この小鳥たちをどうするんだ」

「まあ、お家に持ち帰って遊んでやるよ。いたずらしてさ、羽が抜けるまでけんかさせるんだよ。おもしろいよな」

「けど、そのうち飽きてくると思うが、そのときどうする？」

「ああ、ぼくんち、猫がいるよ。猫は鳥が好きだから、猫にやるよ」

牧師はしばらく黙っていました。

「坊や、この小鳥たちをどれくらいで売りたいかね？」

「はあ?!! まさかおじさんこの小鳥たち欲しいというんじゃないだろうね?これはただの野生の小鳥たちだよ。歌えないんだよ。それにさ、かわいくなんかないよ。」

「いくらかね?」牧師はもう一度聞きました。

少年は、ちょっとおかしいんじゃないかと思いながら牧師を見上げて、

「10ドル?」

牧師はポケットから財布を出して10ドルを少年の手に渡しました。少年は一瞬のうちに消えて行ってしまいました。

牧師は丁寧にその鳥かごを持って、公園の木や草のある所に行きました。かごをおいて入り口を開き、ちょっとたたいて鳥を逃がしてあげ、自由にしてやりました。

そのかごを牧師は講壇に持ってきたのでした。
そこで牧師はこの話をはじめました。

ある日、サタンとイエスが話し合いを持ちました。サタンはエデンの園から帰ってきたばかりでした。彼はご満悦で誇らしげな態度でした。

「先生。私はあの下界に住んでいる人間どもをみな手に入れましたよ。彼らに罿を仕掛け、抵抗できないえさをおいたんです。まんまとみんな引っかかってしまいました！」

「おまえはその人々をどうするつもりなんだ？」とイエスは聞きました。

サタンは、「ああ、おもしろく遊んでみますよ。私は彼らにどのように結婚したり離婚したり、どう憎んだり、お互いに虐待するかを教えますよ。また暴飲、暴食、たばこを吸ったり、のろい合ったりする方法を教えますよ。銃や爆弾を発明する方法を教え、お互いに殺し合う方法を教えますよ。まあ、彼らとふざけて遊びますよ！」

イエスは「それがおわったら、おまえは彼らをどうするつもりなのか？」と聞きました。

サタンは、誇らしげに「ああ、殺しちゃいますよ」

「彼らをどれくらいで売りたいか？」とイエスは聞きました。

「え？あなたはその人間どもが欲しいのですか？ いいことないですよ。あんな人間どもなんか手に入れてどうするんです？ あいつらはあなたを憎みますよ。あなたにつばをはき、あなたをのろい、殺しますよ。そんな人間どもが欲しいんですか？」

「いくらでゆずってくれるかね？」ともう一度イエスは聞きました。

サタンは、イエスを仰いであざ笑って、

「あなたの全ての血液と全ての涙、あなたの生命のすべてですよ」と言いました。

「よろしい！」

そしてイエスはその値を払ったのでした。

牧師は、かごをとりあげ、そのかごの戸を開きました。...

そして講壇を降りて去っていきました。

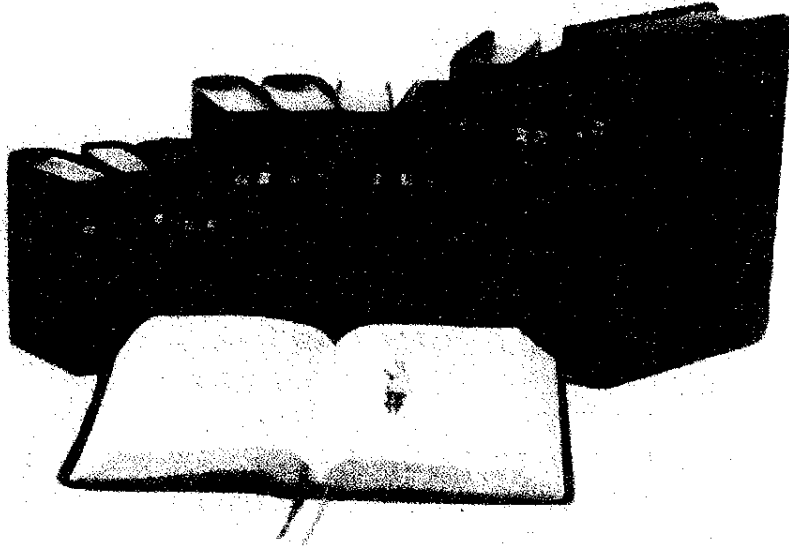
1 コリ 6:20 「あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。」

1 ペテ 1:18、19 あなたがたのよく知っているとおり、あなたがたが先祖伝来の空疎な生活からあがない出されたのは、銀や金のような朽ちる物によったのではなく、きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである。

ヨハネ 8:32 また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」。

ガラテヤ 5:1 自由を得させるために、キリストはわたしたちを解放して下さったのである。

ヨハネ 8:36 だから、もし子があなたがたに自由を得させるならば、あなたがたは、ほんとうに自由な者となるのである。



スタディバイブル(研究用聖書)を感謝！

証

わたしの元にスタディバイブルが届いたのは、2000年8月下旬、カナダに旅立つ直前のことでした。信仰の友、鎌田幸江さんが紹介してくださって、ちょうどタイミングよく手に入れることができました。その半年前に、彼女の好意により、証の書の合本がプレゼントされたので、わたしはこの2冊を大事に抱えて日本を発ちました。その時には、これらの本がどんなにわたしを支え、励ましてくれることになるかを、全く知らなかったのです。

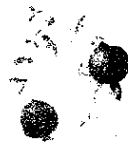
カナダでは、主に医事伝道のためのトレーニングを受けてきました。自然療法をつかった癒しの方法だけでなく、どのように真理を伝えるのかを学ぶために、毎日聖書と証の書を必死になって読みました。それまで、わたしは証の書を自分で読んだこともなく、聖書を研究したこともありませんでした。小さい頃から教会に通い、三育教育を受けてきましたが、個人的にイエス様と交わり、真理を確信して生きていたわけではなかったのです。そのようなわたしが、神様のあわれみにより、み言葉や証の書をとおして神様が祈りに答えてくださることを幾度となく経験し、神様がわたしを個人的に愛し導いてくださっていることを確信することができるようになりました。神様が、こんなに小さなわたしでもいつも見守ってくださっていて、細かい心の動きひとつひとつに心を留めてくださっていることに、本当に感謝しました。

こんなことがありました。カナダの各地を、健康教育と聖所のメッセージを伝えるためにセミナーを開いている女性宣教師の人と旅している時のことです。その日のセミナーが終わり、わたしは後かたづけをしていました。重たい本や荷物をやっとの思いで車

に積み込み、疲れた足取りで戻ってきたとき、先生に「あそこにもう一つ残ってる物があったわよ。忘れないで。」と、注意され、わたしは少しむっとしました。「なんで、ありがとうってまず言ってくれないわけ?!」そんな風に考えたのです。その頃、イザヤ書を毎日1章ずつ読んでいました。その日、聖書を開くとスタディバイブルのコメントに次のようなことが書いてあったのです。「自分の気に入らないことを何か言われたりされたりしたから、また自分に対する当然の配慮がなされなかったからといって、つぶやいたり不満を言ったりすることに従事しているすべての人々に、私は懇願する。彼らは、サタンが天で始めたまさにその仕事を進めているのだということを覚えて欲しいと。」(スタディバイブル旧 923) 思わずわたしは、吹き出してしまいました。深く反省するとともに、「ああ、神様はわたしの気持ちひとつひとつを知っておられる。」と心から感じ、神様の愛の目が注がれてることに感謝しました。「主よ、あなたはわたしを探り、わたしを知りつくされました。あなたはわがすわるをも立つをも知り、遠くからわが思いをわきまえられます。あなたはわが歩むをも、伏すをも探り出し、わがもろもろの道をことごとく知られます。あなたは後から、前からわたしを囲み、わたしの上にみ手をおかれます。」詩篇 139 篇 1-5

同じようなことが、何度も何度もありました。先が見えないとき、自分の無力さに打ちひしがれるとき、心がざわざわして落ち着かないとき、怒りがおさえられないとき、どんなときにも、神様は聖書と証の書をとおして、わたしの切なるうめきに答えてくださったのです。こども賛美歌にあるように「これはせいしょ かみさまから わたしがいただいた おてがみです」と、心から言えるようになりました。

1年間、カナダでやってこれたのは、家族や友達の祈りに支えられたから、そしてスタディバイブルと証の書を通して直接神様が私に語りかけて支えてくださったからです。このようなみ言葉が与えられていることを心から感謝しています。(S. N.)



証

スタディバイブルの魅力は、何と言っても読めば読むほど味が出てくることでしょう。はじめて手にしたその日よりも、今日のほうがはるかに味わい深く、手放せない大事な本になっていくのです。きっと、今日よりも明日、明日よりもあさって、...とますます光から光へと導かれ、主の御再臨に備えさせてくれることでしょう。

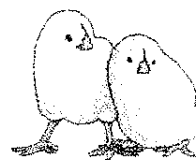
スタディバイブルは、毎日直面する様々な試練や悩みにことごとく回答を与えてくれる不思議な聖書です。どうしてこんなにも今の自分にピッタリの文章があるのだろう、と驚くことは一度や二度ではありません。自分の弱点もあからさまに示され、たまに読みたくなくなる時もあります。でもそうやって、スタディバイブルから離れてしまうと神様との通信も切れてしまい、自分の力に頼って、からぶりの生活をしてしまうのです。どんなに反発心が起きても、祈りながら読み続けること、これが成長の秘訣だと思えます。神様が私に個人的に語りかけてくれる聖書、それがスタディバイブルです。

人から身におぼえのないうわさをたてられ、情けないような口惜しい思いでいた時、箴言 16:32 の引用文(旧)P.871~873 を読んで救われた気がしました。是非この引用文は皆さんに紹介したいです。

「悪を思わない愛で満たされている心は、自分が無礼な振る舞いを受けたり、苦情の種になっているのではないかと気をつけて見張っていたりはしない。……偽りの噂が我々の周りに流布されることは予測することができる。しかし、我々がまっすぐな道をたどり、それらのことに無関心を保つなら、他の人々もまた関心を持たなくなるであろう。自分の評判を心配することについては、神にお任せしよう。そのようにして、神の息子また娘として、我々には自制心があることを示すのである。神の霊に導かれていること、そして怒るに遅いことを示すのである。中傷は、我々の生き方によって年月を経るうちに忘れられることがある。それは弁解の言葉や憤りで鎮めることはできない。神を畏れて行動することに大いに気を遣おう。そして、行動によってそれらのうわさは間違いであることを示そう。……我々の品性を最も傷つけることができるのは、我々自身である。」

最後の時代に直面する我々のために神様が特別に備えてくださった聖書、それがスタディバイブルだと信じています。特に黙示録の引用文は具体的で明らかな情報を与えてくれます。これこそ、生きて主を迎える備えをさせてくれる聖書です。山にのがれる時には、何を忘れてもこの聖書だけは必ず持って行きたいです。

丁度良い時機(タイムリー)に、スタディバイブルを与えてくださった神様に、そしてスタッフの皆さまに心からの感謝でいっぱいです。(M. K.)

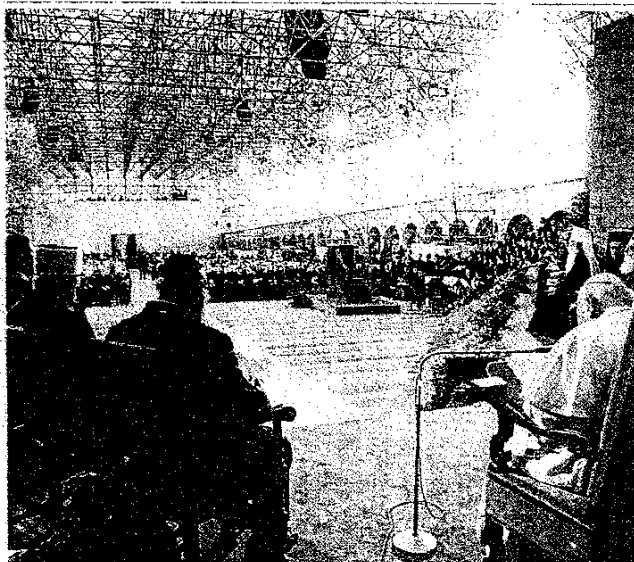


「我々はこれ以上の光、真理を与えられないと一時も考えてはならない。我々は無関心によって清める真理を失う危険がある。…我々はすでに受けた真理を堅く持つと同時に、神が送られるいかなる新しい光に対しても疑いの目を持つべきではない。」福音宣伝者 310(英文)、1915年。

中国新聞

エキュメニカル運動は、キリスト教の壁を越えて、全世界の宗教を合同させようという勢いである。

「そして彼らはこの合同の中に、全世界を改心させるための一大運動と、長く待ち望んでいた福千年期の先触れを認めるのである。」大争闘下 351。



24日、イタリア中部のアッシジで行われた「平和の祈り」の式典。手前右はローマ法王ヨハネ・パウロ二世 (A P 共同)

宗教指導者が一堂に

法王主宰で「平和の祈り」

イタリア中部

【ローマ24日共同】ローマ法王ヨハネ・パウロ二世は二十四日、聖フランチェスコゆかりの地イタリア中部アッシジで世界のさまざまな宗教の指導者約百五十人とともに「平和の祈り」の式典を行った。

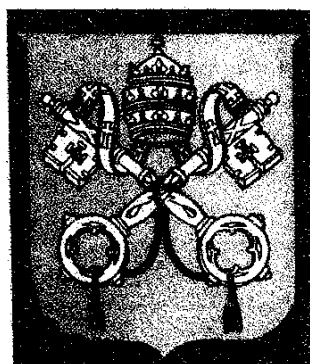
法王は米中核同時テロの特設ステージで式典を主宰した。イスラム教代表は「神の名を借りて暴力的な行為を行わないよう祈りに祈りをささげた。一緒に食事を囲む対話と指導者を招待、大聖堂横断する宗教が世界にあり、皆、共存の行事も行われた。

平和のため努力しなればならないと呼び掛け、奥まった市民約千人から拍手を浴びた。この後、各宗教指導者が参加した。平和の祈りには十九カ国のイスラム教代表のほかユダヤ教、仏教、ヒンズー教など十二の宗教が参加した。

これもまた、我が教会のローマへの接近か？！

聞いたことはあったがインターネットで初めて見た。1995年、オランダのユトレヒトで開かれた世界総会の各国代表者らが自国の旗を掲げてパレードしたとき、バチカンの旗を掲げてマーチに参加する人もいたという。

「教会の主流は反カトリシズムから移り変わった。...カトリック教会と協力体制の新しい立場」(インデアナポリス・クライテリアン、カトリック新聞)のあらわれか。



 編集後記：

長い間、いろいろな事情がありましてアンカーを出版できなくて読者の皆様には誠に失礼致しました。あまりにも多くの新しい光に圧倒されるこのごろです。読者の皆様にもぜひ分かち与えたいと思います。これからまた頑張りますのでよろしくお願ひします。

2002年春季聖書セミナー

聖書の創世から

レビ記、民数記、申命記が現代
SDA に語る！生きて主を迎える
144,000 を備える！



ジョン・バンデンバーグ先生は、米国コロラド州で歯科医をされ、後に南ダコタ州、ミネソタ州、アイオワ、ミズーリ、南カリフォルニア部会で公衆伝道者として働かれた。また、フィリピン、ロシアでも連続講演会を持った経験者。神学、歯科医の称号をっておられる。

聖書の探検 (Bible Explorations)の主宰

- 今帰仁村ライフスタイル・センター 3月22日(金)～28日(木)
毎日午後2時～8時半まで。 0980-56-2783
- 赤城山学園 3月29日(金)～4月1日(月)まで。
詳しくは： 0272-83-6315 に連絡してください。

「ユダヤ制度の意義は、まだ十分に理解されていない。その儀式や象徴の中に意味深い真理が予表されていた。.....新たな探求が行なわれるたびに、これまでの啓示になかった更に興味深いものを見るのである。研究の課題は無尽蔵である。」実物教訓 111、113。